

当別文芸の会だより NO.88

H29・10/30 (連絡先・河地良一 TEL090-5076-2550)

当別文芸の会8周年「公開・文芸セミナー」開催される

錦秋の季節を迎え、好天にも恵まれた10月22日(日)、13:30より白樺コミセンを会場にして第8回を数える「公開・文芸セミナー」が開催されました。当日は会員15名、町民12名の計27名のみなさんが参加されました。

第1部では、当会副代表の竹原一孝さんが、「時代小説の魅力」―藤澤周平と宇江佐真理―と題して提言をしていただきました。

藤澤周平は昭和2年(1927)に山形県鶴岡市に生まれ、教師になりましたが、病弱で教師をやめ、療養生活のあと、小説家としてたくさんの作品を残しています。直木賞受賞作家でもあります。江戸時代を舞台に、庶民や下級武士の哀歓を描いた時代小説は、彼の心情そのものです。彼の口癖は「ふつうが一番」「でも、それが一番むずかしい」と言っていたそうです。平成9年(1997)に亡くなり、今年は没後20年の年にあたるそうです。竹原さんの解説の中で、藤澤周平を称してある作家が、「江戸城は、太田道灌が築いたのではなく、大工と左官が築いた」と言っていたのが、とても印象に残りました。

続いて、宇江佐真理は函館市で昭和24年(1949)に生まれ、オール読物新人賞を受賞し、デビューした作家です。藤澤周平を目標にした時代小説家として注目されましたが、一昨年、平成27年(2015)に、乳がんにより惜しまれて亡くなりました。彼女は現代を評して、「便利は不便、引き換えに失ったものは何? 便利はスピード、待つことが無くなった」と言っていたそうです。提言をいただいた竹原さん、ありがとうございました。

続いて、第2部では、当会幹事の東前寛治さんの司会で、竹原さん、当会幹事の新名正勝さんの登壇で、「時代に翻弄されて生きてきた人たちと現代」と題してのテーマで「文芸フォーラム」をおこないました。新名さんから、「江戸時代と現代の違い、また、共通すること」などの提言をいただき、参加者からは、「時代小説と歴史小説の違いはあるのか」など、たくさんの話題が取り上げられました。興味の尽きない今回の「文芸セミナー」。提言、そして、参加されてみなさんにお礼を申し上げ、当日の概要とさせていただきます。

11月の読書会は城山三郎の「そうか、もう君はいないのか」です

11月25日(土) 13:30 白樺コミセン 文庫本(新潮文庫)を同封します